

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 文学部

組織目標		達成状況(成果)
( 下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。 )		
教育	<p>①学生生活への支援を強化、推進する。 とくにメンタル面でのサポート体制の充実(1年次生向けメンタルヘルス講義、教員用指導マニュアル等)、キャリア支援に関する基盤整備(就職先、取得資格、サークル活動に関するアンケートの整備・追加)、障がい者に対する学習等の支援(専門科目のノートイク体制等)など、文学部が直面する学生生活上の問題について独自の支援を行う。</p> <p>②国際交流の推進による新たな教育を構築する。 異文化理解教育、外国語教育に対する独自の取り組み実施(副専攻コース特別講義等)、外国人留学生と日本人学生との交流の場(懇談会、勉強環境)創出、交換留学の発展を目指した海外大学との新たな交流協定締結の準備などを推進する。</p>	<p>①学生生活への支援強化・推進 ・メンタル:文学部長裁量経費を用いて「文学部メンタルヘルス・カウンセラー」を採用した。教員用指導マニュアル作成(「教員用の学生支援ガイド」)を作成、配布した。1年次生向けメンタルヘルス講義実施(ガイダンス科目の一環)を実施した。 ・キャリア支援:キャリア支援センターと連携して、就職先調査を強化しただけでなく、昨年度実施の「取得資格アンケート」を就職先との関連性を考慮しながら整理した。アンケートは今年度も実施している。 ・障がい学生:文学部の該当在籍学生の対して個別障がい学生支援委員会から、卒業後のこと(教員志望なので、教育実習等)も含めて支援している。 ②国際交流推進の教育 ・副専攻コース特別講義(ドイツ領事S. Beidemann)を行った。外国人留学生(交流協定に基づくフランス・ボルドー第3大学、韓国成均館大学等)、およびその他の留学生との懇談会を開催した。留学生に対する独自の授業プログラムを行った。 ・交流協定締結計画を進めているドイツ・ボーフム大学からの教員による夏期語学講習説明会を開催した。 ③その他 ・全学および文学部のディプロマポリシーと各授業科目との関連づけをシラバスにおいて明記できるようにした。</p>
	達成度:	④ 3 2 1
研究	<p>①文学部共同プロジェクトの推進 第2期中期計画において学部として継続的に推進する複数の新たなプロジェクト(「東西文化の交流」、「島嶼の生活」等)を立ち上げ、財政的支援を行いつつ、学部の研究活動の充実を図る。</p> <p>②国際的研究活動の促進 国外研究者を積極的に招聘するとともに、海外に文学部教員を派遣して、国際的研究集会、国際的なシンポジウム等を活発に開催することをおして、学部としての研究の国際化を進展させる。</p> <p>③研究成果の集約と整理 昨年度に引き続き、文学部教員のこれまでの研究成果、とりわけ今年度は著書、報告書などを網羅的に収集し、資料室に整理して公開するとともに、それらのリストを作成する。</p>	<p>①プロジェクト ・文学部3大プロジェクト(「言語とコミュニケーション」「島嶼の生活」「異文化交流と翻訳)を立ち上げ、研究・調査・研究会等を開催した。 ・とりわけ、「時代の中の異文化交流」は、学長裁量経費を得て、計6回開催し、報告書を作成した。 ・その他に「ビザンティン芸術の継承」「日本と韓国の近代化」等のプロジェクトを行った。 ②国際的研究活動 「時代の中の異文化交流」企画では、フランス、ドイツ、韓国からそれぞれ複数の研究者を招聘した。また、ドイツ・ボーフム大学に本学部教員2名を派遣して、現地で講演・研究会を開催した。 ・「ビザンティン芸術の継承」「日本と韓国の近代化」プロジェクトでは、ギリシャ、韓国から複数の研究者を招聘した。 ③研究成果の集約と整理 ・文学部資料室に本学部教員の研究成果を収集し、リストを作成整理する事業を推進した。(今年度は、研究紀要、プロジェクト報告書、文学部叢書の収集・整理が中心。)</p>
	達成度:	4 ③ 2 1
社会貢献	<p>①研究成果の公開 文学部公開講座を開催するとともに、文学部教員その他による講演会、シンポジウム、研究会などを一般市民にも公開し、地域に対する研究成果の還元を積極的に推進する。</p> <p>②文学部30周年記念事業 H.22年度文学部は30周年を迎えるが、この記念事業として市民参加のイベントを企画し、地域に根ざした取組を行う。</p>	<p>①研究成果の公開(社会還元) ・文学部公開講座「グローバル時代の国家・国民のゆくえ」を開催した。 ・また、大学院社会文化科学研究科、付属図書館、全学、および岡山県の公開講座に講師を派遣した。 ・プロジェクト「時代の中の異文化交流」「島嶼の生活」「言語とコミュニケーション」「ビザンティン芸術の継承」等のシンポジウム等は一般公開として開催した。文学部主催シンポジウム等参加市民の「常連」が形成されつつある。 ②文学部30周年記念事業 ・50周年記念館で、本学部教員の解説付きで、専門狂言師(茂山千五郎他)による狂言の公演を開催(満員)した。 ・また、文化講演シリーズ「時代の中の異文化交流」(6回)も、文学部30周年記念事業である。</p>
	達成度:	④ 3 2 1
評価の客観的指標・定義	事項	定義(抜粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法:前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法:4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年:正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額	
共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額	
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 目標および指標については、所期の課題を達成したと考える。		
なお、国際交流推進の教育については、2月末のニュージーランド地震等を踏まえて、学生の留学条件、交流協定締結計画を含めて、一層、慎重かつきめ細かい対応が必要である。		
【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する		
注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせ設定した領域・指標により修正してください。		